



救急フェア2014

9月6日(土)に、イオン気仙沼店で、『救急フェア2014』を開催しました。

このイベントは救急医療への正しい理解と普及啓発を図るため、9月9日の『救急の日』に近い週末に、イオン気仙沼店の協力を得て、関係機関と共催で毎年実施しています。

今年は気仙沼高校の阿部力丸(りきまる)さんと気仙沼西高校の尾形成海(なるみ)さんに一日救急隊長をお願いしました。



また、ホヤぼーやとみやぎ消太くんも参加し、一日救急隊長とともに、救急医療や応急手当の普及啓発活動、心肺蘇生法の実技講習を実施しました。



そのほか、消防車両等の展示や記念撮影、献血、保健師による健康相談を行い、多くの方々に御参加いただきました。

特にはしご車の試乗体験は子どもたちに大変好評でした。

難病医療講演会が開催されました!

9月6日(土)に、宮城県難病相談支援センターの主催で、当事務所を会場に「難病医療講演会」が開催されました。

今年度は潰瘍性大腸炎及びクローン病の患者様・ご



家族の方や、保健・医療・福祉関係者等を対象に、「炎症性腸疾患と最新の治療について」と題し、東北

大学病院の木村智哉先生から病気の原因や治療の最新情報に関する講演をしていただきました。

講演後は、炎症性腸疾患友の会会長の高村秀幸氏を司会とし、参加者からの相談・質問に木村先生が回答する時間が設けられました。1時間ほどの時間で、多くの方が病状や日常生活における不安等について質問され、熱心に先生の回答をメモする姿が見られました。

講演会は終始和気あいあいとした雰囲気の中行われ、参加者は炎症性腸疾患に対する知識を深められていました。



これまで「脱法ドラッグ」や「合法ドラッグ」と呼ばれてきた乱用薬物ですが、厚生労働省は7月22日に「危険ドラッグ」という新しい呼称名を決定しました。今夏、危険ドラッグの使用に起因した事件事故が相次いで起こり、世間を賑わせたのは記憶に新しいと思います。危険ドラッグは、ハーブやお香などと称して販売されていますが、麻薬や覚せい剤と類似の構造を持つもので、乱用者に身体的影響を及ぼすだけでなく、大麻や覚せい剤などの乱用のきっかけになり得る大変危険なものです。一度使用するとやめられなくなることや、死亡例を含む健康被害や異常行動を起こす場合があり、覚せい剤や大麻などと同様に大変危険な薬物です。決して使用してはいけません。

復興に奮闘！

～南三陸町に派遣されて感じたこと～

【南三陸町役場 保健福祉課 社会福祉係】

武藤州範 主幹

私は震災2年後の2013年（平成25年）4月に千葉県八千代市から南三陸町に派遣され赴任しました。この年は寒さが厳しく、3月31日には雪が降り4月1日の初出勤日も寒かったことを今も鮮明に覚えています。また、当時の南三陸町はがれきの処理は終わったものの、がれきに代わり、家の基礎部分等のコンクリートが志津川の町の中に山積みされ、震災からの復興までは道遠きものと感じていました。しかし、現在は高台移転のための造成、志津川地域等の盛土、港湾部の改修、そしてこの8月には、南三陸町最初の災害公営住宅が入谷・名足地区の2か所に合計84世帯分（全体の計画数770世帯の約11%）が完成し、被災住民の方々の入居も開始され、ようやく被災住民の方々の安住の地も確保されつつあります。



さて、私は南三陸町保健福祉課社会福祉係で生活保護の相談と災害時要援護者支援台帳の整備に携わらせていただきました。南三陸町は震災が起きるまで、日本の原風景ともいえる自然と昔ながらの良き地域社会に恵まれ、不便さが多少あっても何不自由のない社会を築かれていたことと思います。しかし、震災以降地域社会は分断されて不自由な仮設住宅での生活を余儀なくされており、長引く仮設住宅での生活はいろいろな精神的な問題を引き起こし（地域住民の我慢の限界も近づきつつある）地域住民同士のトラブルも増加しつつあります。

また、町内の高齢化率が30%を超え、そのうえひとり暮らし高齢者も多く、山間地域では限界集落も見受けられます。加えて、経済的にも国民年金のみで生活する高齢者も多いなど行政課題を多く抱えております。

↓入谷復興住宅



このような状況の中、南三陸町で様々な方との面接相談を通して感じた点を記載いたします。

- ① 南三陸町を含む東北地域は、昔ながらの良き地域社会が残っており健全に生活できる住民にとってはとても生活しやすい地域です。
- ② 大小の差はあれ、一部に昔ながらの文化が残されています。（漁村の飲酒習慣など）
- ③ 狭い地域での血縁関係の強さがあります。（例：町の中で何か起こると、すぐに誰々の家の誰々がと知れ渡る）
- ④ 東北特有な我慢強さと優しさ、そして純朴さを併せ持つ人間性があります。

これらの点は良い反面、障害者世帯・ひとり親家庭・生活保護世帯・一部の高齢者世帯などにとっては、とても生活しづらいのではないかと考えることもあります。私のように八千代市時代を含め多くの時間を社会福祉事業の携わってきた者からすると、社会福祉の基本は基本的人権の尊重（平等権・自由権・社会権の生存権の保障など）を確立するための事業と考えています。

また、生活保護は国が憲法第25条の生存権を具現化する制度として、法律により国民に対し保障した制度です。保護費の基準には地域格差（その地域の生活水準）はありますが、生活保護を適用するか否かは全国一律です。

地域社会の目標は、弱者など誰でもが住みやすく活力のある地域社会をつくることと思います。ユニセフでは「子どもにやさしいまち」（Child Friendly Cities=CFC）を掲げ、「子どもにやさしい社会は誰でもが生活しやすい社会」と考え、その実現を目指しています。是非南三陸町を含め、震災復興にあたっては地域社会が「弱者にやさしいまちづくり」の実現を期待しております。

最後に、やさしく受け入れていただきましたこの地域の皆様（住民・南三陸町職員・気仙沼保健福祉事務所）、この地に赴き支援していただきました多くの諸先輩方及び何も言わず送り出してくれた家族に感謝するとともに、この地域の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

薬物乱用防止ヤング街頭キャンペーン

7月25日（金）にイオン気仙沼店にて、薬物乱用防止ヤング街頭キャンペーンを開催しました。

本キャンペーンは毎年気仙沼地区の高校生の皆さんにボランティアの御協力をいただいております。今年度は気仙沼高等学校の生徒さんに薬物乱



用防止啓発に関するパンフレットやうちわなどの配布、募金活動をしてもらいました。

地域住民の皆さんに対して「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に、薬物乱用の恐ろしさや薬物乱用のない社会環境づくりを訴えかけました。薬物に一度でも手を出すと、自分の意思ではやめられなくなってしまいます。

「少しくらいなら大丈夫」や「自分ならすぐにやめられる」といったことは絶対にありません。薬物の誘惑に負けず「ダメ・ゼッタイ」と断る勇気が大切です。

平成26年度特定給食施設等調理従事者研修会

8月4日（月）に、気仙沼保健所大会議室にて、平成26年度特定給食施設等調理従事者研修会が開催されました。

研修内容は宮城学院女子大学食品栄養学科准教授 鎌田由香氏を迎え、「減塩は調理現場から」、食品薬事班平塚技術次長から



「給食施設の衛生管理について」と「正しい手洗い方法について」実演を交えて講話いただきました。121名の参加があり、アンケートから、手洗い実習、使い捨て手袋の使用法について好評であったこと、また減塩の必要性を強く感じたとの回答が多くありました。



沢山のご参加、ありがとうございました♪



❀ 編集後記 ❀

朝夕毎に涼しくなり、秋の気配が次第に濃くなってきました。秋といえば…

「スポーツの秋」健康づくりにちょっとした運動を始めてみてはいかがでしょうか？

「食欲の秋」涼しくなっても、食中毒対策はお忘れなく！

これから、健康管理が難しい季節となりますが、皆様、くれぐれもお気をつけてお過ごしください。

気仙沼保健福祉事務所から、今後も注意喚起などを行っていきたいと思います。

（次号は11月の発行予定です。）